

# 令和六年度 奈良県教育長賞

## 日本の医療と税金

十津川高等学校2年 中川 稔

日本の医療技術は世界でもとても高いと良く耳にします。小さい頃は、病院はなんだかすごい所としか思っていなかったのですが、今になって病院で働く人や医療従事者の方々の偉大さ、そして病院というシステムの大切さが理解できてきました。私がそう感じた理由は身近な所にありました。それはネットニュースで見た救急車のことでした。日本の救急車はどこにいても一一九番に電話するだけで、すぐに駆けつけてくれます。あたりまえのように「いつ、どこでも」来てくれる救急車ですが、このような様々な人の協力と最新の技術の賜物が安価だとは考えられません。実際にアメリカでは救急車を利用するのに千三百ドル。日本円にして二十万円ものお金がかかります。対して日本では救急車の利用の際、一切料金がかかりません。アメリカの救急車の記事を見て、日本との違いは何なのかが気になり、少し調べていくと分かってきたことがありました。自由主義の国であるアメリカの救急車はタクシーのような感覚に近いということが分かりました。さらに、州や地域、病院などでも費用に差があることがあり、これはアメリカの自由診療制度が関係している様なのですが、これに対して日本の救急車の費用はその多くが税金から負担されており、私たちが利用する医療機関での医療費は健康保険制度によりかなり抑えられていることが分かりました。日本の健康保険制度は国民全員が受けられる制度です。ですがこの制度は国民が税金を納めるという信頼の上で成り立っているものであり、その中には人々が皆協力して助けあうという日本人の優しさと人間性があるのではないかと感じます。

社会というのは複雑だと思います。ですがその根本的な考えは、国民が協力しあい、一人一人の力で国を良い未来へと運ぶということではないかと思いました。税金を納めるということが今となっては当たり前かのように思えてしまいます。ですが自分が社会で困っている人の助けになっていると考えると少し、税金を納める意義が分かると思いました。

医療技術が私たち国民を支えています。ですがその裏には国民一人一人の小さな優しさと税が深く関係していると思いました。

私はこれから日本で生活する国民の一人として社会の一員になります。日本人としての優しさを忘れることなくいようと思いました。